

評価委員会総合評価

研究課題名：台風・顕著現象の機構解明と監視予測技術の開発に関する研究

評価委員

委員長：岩崎俊樹、中島映至

委員：木本昌秀、三枝信子、田中博、坪木和久、泊次郎

評価年月日：平成30年11月26日

1. 総合評価

- (1) 実施の可否 可 否
(2) 修正の必要の有無 修正の必要あり 修正の必要なし

2. 総合所見

本研究は、最先端の偏波・フェーズドアレーレーダなどの最先端観測装置やAIなどの新技術を用いた、線状降水帯をはじめとする集中豪雨や竜巻等の顕著現象の機構解明と監視予測技術を目的とした、先端的であり気象庁の予報業務と直結する重要な課題である。

本課題のテーマの一つの台風については、構造解析やメカニズム解明などの重要課題が計画されており、気象庁の台風解析や予測精度向上に寄与することが期待される。また、気象研究所の知見・技術が上手く集約されており、良い成果が期待される。

なお、研究の実施にあたっては、以下の点について留意して進めて欲しい。

- ・是非、スピード感を持って、成果を社会に還元して欲しい。
- ・副課題2の集中豪雨や大雪などの顕著現象の診断的予測手法の開発に大いに期待している。
- ・AIは次世代気象業務に向けて重要な研究課題であり、本課題の目的に合致する。ただし、まだ開発に時間がかかり、現時点では決して万能とは思えない。AI向きの問題を上手に切り取り、経験を積む必要がある。AI専門家との交流や人材の育成などに配慮する必要がある
- ・監視予測技術については、社会に提供される情報の出口を明確にして、可能な限り客観的な手法を開発すべきである。
- ・やるべきことが非常に沢山あるように思うので、課題設定とスケジュールリングの管理をしっかりと行って頂きたい。これまでも実施されているが、顕著現象発生時の即時分析は社会的にインパクトも高く、宣伝効果も抜群なので、そのような分析ができる体制を十分に整備願いたい。

- アンサンブル時代を迎えた今、多数サンサンブルを用いた感度解析をメカニズムや要因分析等に組織的に用いる潮流を確立して頂きたい。